

支笏洞爺国立公園 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム

令和 3 (2021) 年 3 月策定

令和 5 (2023) 年 2 月 1 5 日更新

支笏洞爺国立公園 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会

目次

1. 策定の背景と目的	1
2. 現状分析	2
2.1. 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区の特性	2
2.2. 自然体験活動の状況	5
2.3. 支笏湖・定山溪地区の利用状況	6
2.4. 支笏湖・定山溪地区の利用を検討するうえで重要な観光動向	13
2.5. 支笏湖・定山溪地区の強みと課題	15
3. 目標	17
3.1. 将来像	17
3.2. ターゲットとする利用者	17
3.3. 基本方針	18
3.4. 目標値	20
4. 取組	23
5. 推進プログラムの進捗・達成状況の確認	36

1. 策定の背景と目的

2016（平成 28）年 3 月に政府がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、環境省は日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に、8 つの国立公園（先行 8 公園）を対象として「国立公園満喫プロジェクト」を開始した。この満喫プロジェクトでは 2020 年までに国立公園を訪れる外国人を 1000 万人にすることを目標として、さらに、訪日外国人利用者が多い富士箱根伊豆、支笏洞爺、中部山岳の 3 つの国立公園を「先行 8 公園に準じる公園」として指定し、2018（平成 30）年 1 月に「支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進協議会」（以下「推進協議会」と記す）が設置された。

支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区（以下、支笏湖・定山溪地区と記す）の美しい自然を保全しつつ、訪日外国人の自然体験活動を推進することを目的として、推進協議会で「支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進プログラム」（以下推進プログラムと記す）を策定した。推進プログラムは、推進協議会構成員が 2020 年までに実施する取組を有機的に結びつけた計画であり、これまで、自然体験活動の現状や目標を共有し、構成員の連携により各取組を進めてきたところである。

しかし、2019 年末から徐々に拡大してきた新型コロナウイルスの影響で、外国との往来はもちろん、国内移動も自粛が要請される状況となり、2020 年に予定されていた東京オリンピックの開催は翌年へ延期となった。国内外の旅行需要を見通せない状況ではあるが、一日も早い観光業や国立公園利用の回復を図るとともに、リモートワークの普及による新たな旅行スタイルへの対応も求められている。

推進協議会の構成員による情報共有や連携により各施策を効果的に進め、支笏湖・定山溪地区の利用の回復を図り、自然環境に配慮しつつ、国内外からの来訪者による自然体験活動を推進するため、「支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム」を策定する。

2. 現状分析

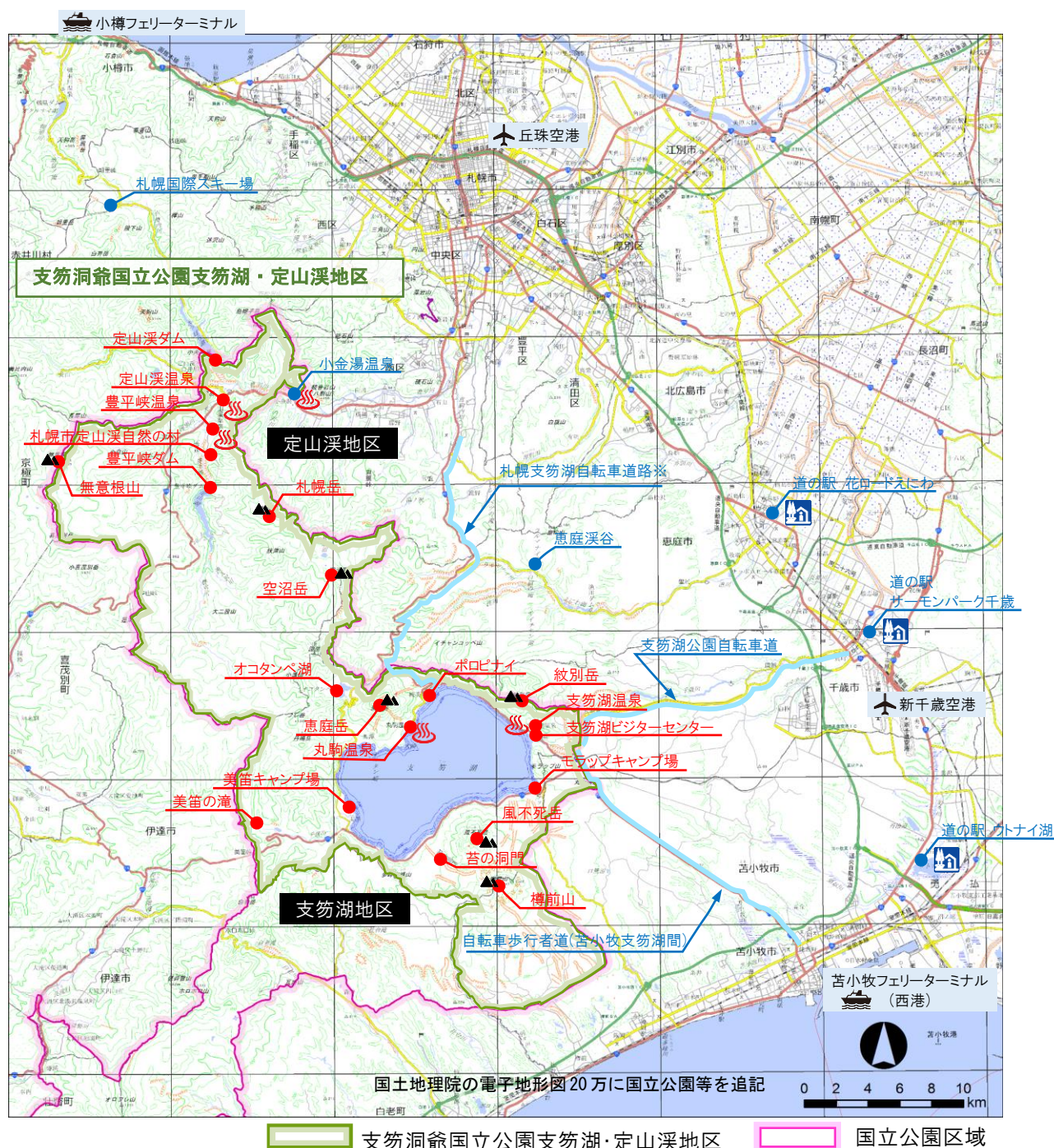
2.1. 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区の特性

2.1.1. 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区の立地、アクセス

支笏湖・定山溪地区は、札幌市中心部や新千歳空港から自動車で1～2時間圏内にあり、レンタカー等を利用した場合は来訪しやすい立地にある。

しかしながら、バス等の二次交通について、支笏湖地区では、千歳市街地から支笏湖への路線バスが1日4往復しかない。定山溪地区では札幌駅から通常の路線バスは1日17便（平日：予約制含む）あるが、定山溪地区から周辺地域へのバス路線はない（2020年12月現在）。

図2-1 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区



2.1.2. 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区の自然・歴史文化

1949（昭和 24 年）年に日本で 14 番目の国立公園として指定された支笏洞爺国立公園は、火山と湖と温泉、そして北方性の森林が織りなす景観が魅力であり、しかも、札幌などの大都市に近接し、野外レクリエーションに利用しやすいことが特徴である。

当該国立公園には、支笏湖・定山溪地区の他に、登別地区、洞爺湖地区、羊蹄山地区がある。

支笏湖・定山溪地区の主要な、自然資源、歴史・文化資源、温泉資源は、表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 支笏湖・定山溪地区の自然・歴史文化

	支笏湖地区	定山溪地区
自然	カルデラ湖：支笏湖（最大水深及びカルデラ湖の面積、共に国内2番目） 火山：風不死岳、恵庭岳、樽前山 植物：高山性の植物群落（イソツツジ、イワブクロ等）	山岳地形：無意根山、空沼岳、札幌岳 渓谷：豊平峡 植物：コケモモ、キバナシャクナゲ等の高山植物
温泉	丸駒温泉、支笏湖温泉	定山溪温泉、豊平峡温泉
歴史・文化	山線鉄橋（製紙会社による軽便鉄道施設） ヒメマス増殖	開湯約150年の定山溪温泉 ダム湖（豊平峡ダム、定山溪ダム）



A 支笏湖



B 支笏湖周辺



C 野鳥の森（支笏湖）



D 山線鉄橋（支笏湖）



E モラップキャンプ場



F 支笏湖周辺



G 定山溪温泉



H 豊平川



I 果樹園（定山溪周辺）



J 豊平峡ダム



K 定山溪温泉錦橋



L 定山溪周辺

（写真：AD 環境省、BCE F 千歳市フォトライブラリ、G～L 定山溪観光協会フォトライブラリ）

2.2. 自然体験活動¹の状況

支笏湖・定山溪地区においては、カヌー・カヤック、スタンドアップパドル、ダイビング（支笏湖地区のみ）、ラフティング（定山溪地区のみ）、フライフィッシングなどの湖や溪谷を活用したアクティビティ、トレッキング・ハイキング、スノーシューなどの山域や遊歩道を活用したアクティビティ、さらにサイクリングといった車道を活用したアクティビティなど、多様なアクティビティが提供されている。

しかしながら、これらについては、各事業者が個別に実施しており、統合的に情報が共有されていない状況であり、また、訪日外国人の受け入れも多くない。

支笏湖地区においては、支笏湖温泉周辺に、ビジターセンター、温泉宿泊施設、遊覧船船着場と施設がコンパクトにまとまり、自然体験活動の拠点エリアとなっており、動力船が規制された静かな支笏湖の湖面を利用して、ダイビング、カヌー等の活動が展開されている。

支笏湖地区においては、湖畔に 11 軒の温泉旅館（ホテル）が建ち、収容人員は約 900 人である（表 2-2）。それに加え、美笛とモラップに 100 張を超える規模のキャンプ場が整備されている。

支笏湖周辺には、樽前山、紋別岳、恵庭溪谷（公園区域外）などの魅力的な資源があるが、美笛の滝、オコタンペ湖から美笛までの道路など主要な魅力地点が安全管理上の問題等により利用できない状況にある。

また、周辺にスキー場がなく、冬期のアクティビティが限られたものとなっている。そのため、毎年 1 月下旬から 2 月中旬にかけて約 3 週間、支笏湖畔で支笏湖氷濤まつりが開催され、冬期間の重要な観光メニューとなっている。

上記の他、千歳、苫小牧から支笏湖を目的地として利用できるサイクリングロードが整備されている。

定山溪地区においては、豊平川沿いなどに 23 軒の温泉旅館（ホテル）が建ち並び、収容人数は約 7,600 人である（表 2-2）。しかし、ビジターセンターあるいは道の駅のような、周辺の自然を案内する拠点施設がなく、当該地区が国立公園内であることを認知していない国内外の観光客も多い。

定山溪付近の豊平川は切り立った断崖となっており、美しい溪谷景観を楽しむ遊歩道が整備されているほか、周辺には、札幌岳などの山や、豊平峡ダム等の人工湖が観光資源となっている。近年は、豊平川の溪谷をフィールドにしたカヌーやラフティングも盛んになってきている。

また、国立公園区域外には、小樽市境に近い朝里岳に札幌国際スキー場が整備されているほか、八剣山地域では乗馬施設や観光果樹園、ワイナリー等の体験型施設が営業しており、定山溪地区を宿泊拠点として、スキー、乗馬、果物狩り等の体験を組合せた旅行商品が造成されている。

¹ ここでは自然体験活動を、紅葉狩り等の自然探勝のほか、キャンプやカヌー、スキー等のアウトドアレクリエーション、収穫体験なども含む、広い意味でのアクティビティとして整理した。

2.3. 支笏湖・定山溪地区の利用状況

【支笏湖地区】

宿泊収容人数は2019年以降に約100人増えたが(表2-2)、宿泊客延べ数は、2016年度以降155,000人泊前後を推移し、外国人の宿泊客延べ数は2019年度では約27,000人泊となり全体の約18%に相当する(図2-2)。全体の宿泊客延べ数は8月にピークとなるが、日帰り客では8月と氷濤まつりが開催されている2月に多くなる(図2-3)。

観光庁が毎年空港等で実施している調査結果をもとに環境省が推計した年間の訪日外国人利用者数において、支笏洞爺国立公園の各地区では2016年より増加しており、支笏湖地区は2016年数値の1.83倍とした2020年目標値38,000人を2018年、2019年と連続して達成した(図2-6)。

外国人宿泊客延べ数は、2020年の目標値には達していなかったが、コロナ禍にあった2019年度も増加した(図2-7)。月別では7月のほか12月や2月の冬期に比較的多い傾向にある(図2-8)。2019年度までの外国人の宿泊客延べ数における国・地域の内訳は、中国、香港、韓国、台湾で全体の8割を超えており、中国が最も多く、次いで香港の割合が高い(図2-9)。欧米豪圏の割合は10%に満たないが、参考までに阿寒湖が含まれる旧阿寒町や札幌市の比率と比較すると、旧阿寒町より若干高く、札幌市とほぼ同じ比率になっている(図2-10)。

主要施設である支笏湖ビジターセンターの来館者数は、2013年度以降、増加傾向にあり、コロナ禍以前までは外国人の割合が増加していた(図2-11)。月別では、8月が最も多く、10月、7月、2月も多い傾向にある。入館者数の少ない12月は外国人の比率が高くなり、外国人利用者が利用の平準化をもたらしていたことがうかがえる(図2-12)。

【定山溪地区】

宿泊施設の収容人数が2019年度に約900人減少したこともあり、宿泊客延べ数は1,000,000人泊台に減少した。外国人の数は、2019年度約166,000人泊は全体の約17%相当であった(図2-2)。

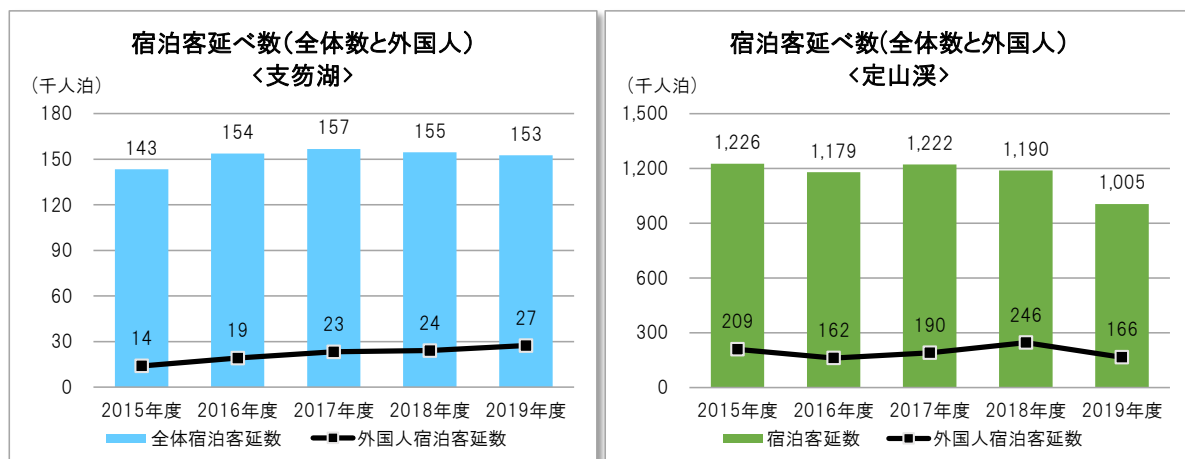
月別の利用状況では、宿泊客延べ数、日帰り客のどちらも、8月、10月、1月に多くなる傾向があるが、月別の増減の差が大きい(図2-4)。

環境省が推計した年間の訪日外国人数は、2016年数値の1.83倍とした2020年目標値には達しなかったが(図2-6)、外国人宿泊客延べ数は胆振東部地震の復興割の影響もあり2018年度に2020年目標値235,500人泊を達成した(図2-7)。月別では、2018年、2019年でみると6-7月、1月と夏と冬の二つのピークがみられる(図2-8)。

外国人の宿泊客延べ数における国・地域の内訳は、韓国、台湾、中国で8割以上を占めているが、国際情勢による韓国客の変動の影響を受けた(図2-9)。

定山溪観光案内所の来場者数については、月別では紅葉時期の10月に最も多くなり、次いで8月となっている。外国人の利用比率は、10月と秋から冬にかけて高くなっていた(図2-13)。

図 2-2 宿泊延べ数(全体及び外国人)の推移



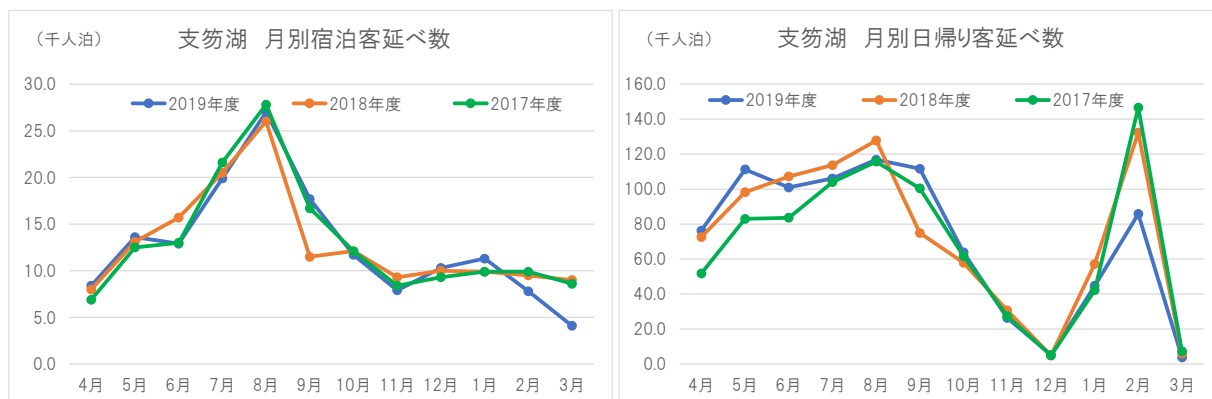
(千歳市、札幌市提供データより作成)

表 2-2 支笏湖・定山溪地区の宿泊施設数と収容人数

支笏湖地区				定山溪地区			
集計基準日	施設数	客室数	収容人員	集計基準日	施設数	客室数	収容人員
2015(平成27)年4月27日	10	219	808	2014(平成26)年度末	22	2,066	8,429
2016(平成28)年5月1日	10	219	807	2015(平成27)年度末	22	2,066	8,429
2017(平成29)年5月1日	10	219	807	2016(平成28)年度末	21	2,052	8,407
2018(平成30)年5月1日	10	219	807	2017(平成29)年度末	21	2,075	8,464
2019(令和元)年5月1日	11	244	903	2018(平成30)年度末	21	2,094	8,535
2020(令和2)年5月1日	11	244	903	2019(令和元)年度末	23	1,970	7,623

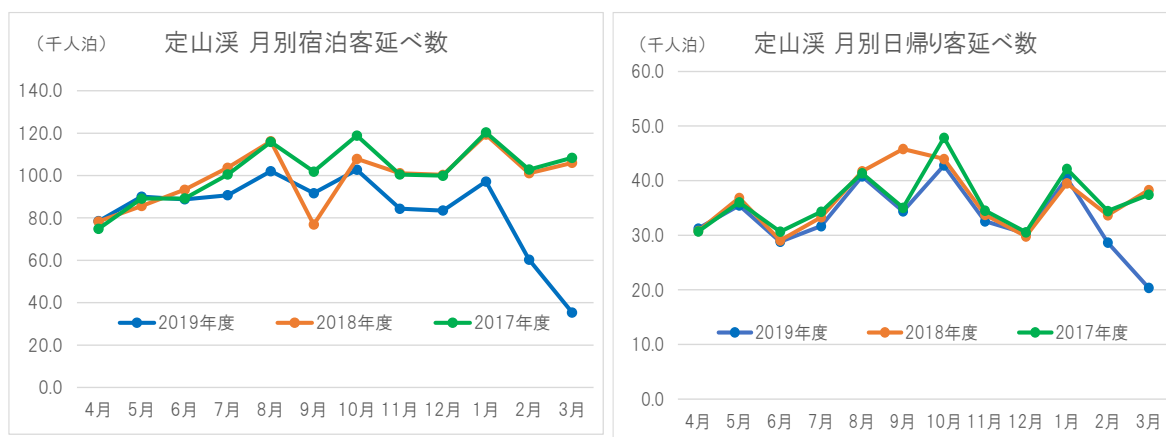
「要覧ちとせ」「札幌の観光」より

図 2-3 支笏湖地区の利用者数の月別比較



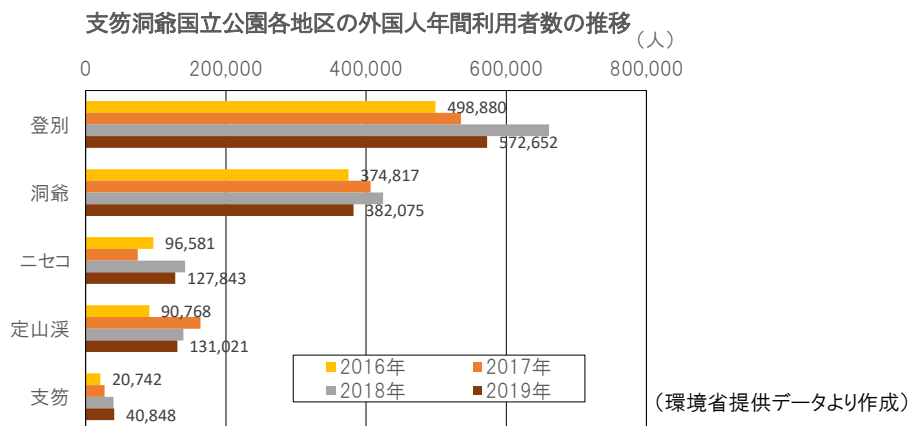
(千歳市提供データより作成)

図 2-4 定山溪地区の利用者数の月別比較



(札幌市提供データより作成)

図 2-5 支笏洞爺国立公園各地区の訪日外国人年間利用者数の推移



※観光庁が四半期毎(年4回)に空港等で行う訪日外国人消費動向調査(アンケート)結果の訪問先回答数をもとに推計した国立公園利用者数。利用者数の数値は12月までの推測値であり、コロナ禍の影響は受けていない数値となっている。

図 2-6 訪日外国人年間利用者数の推移

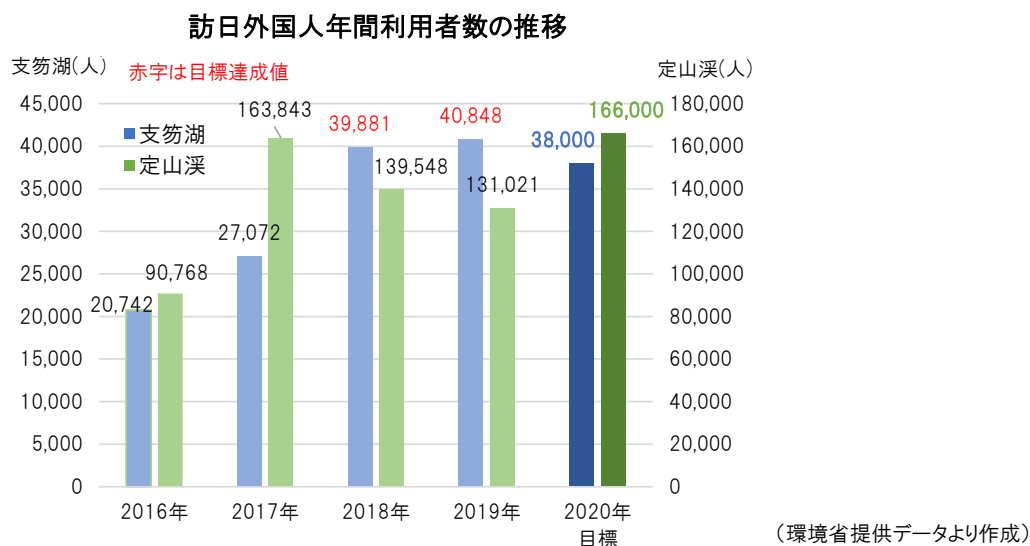
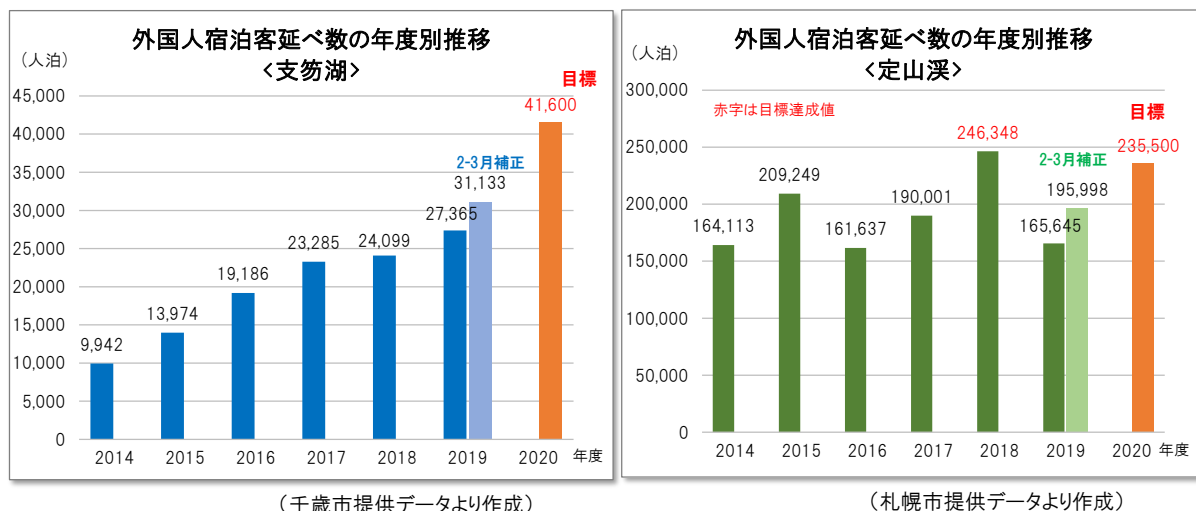
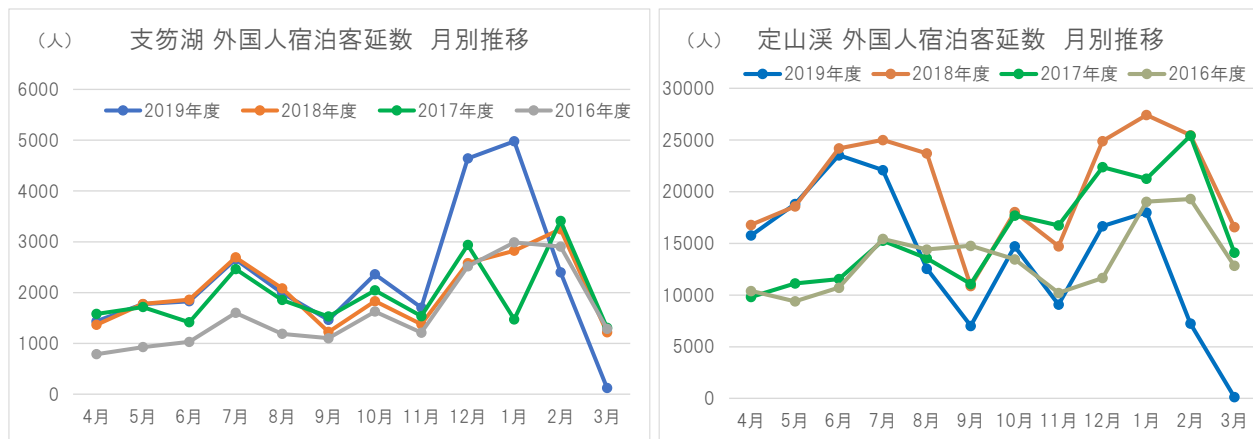


図 2-7 外国人宿泊客延べ数の推移



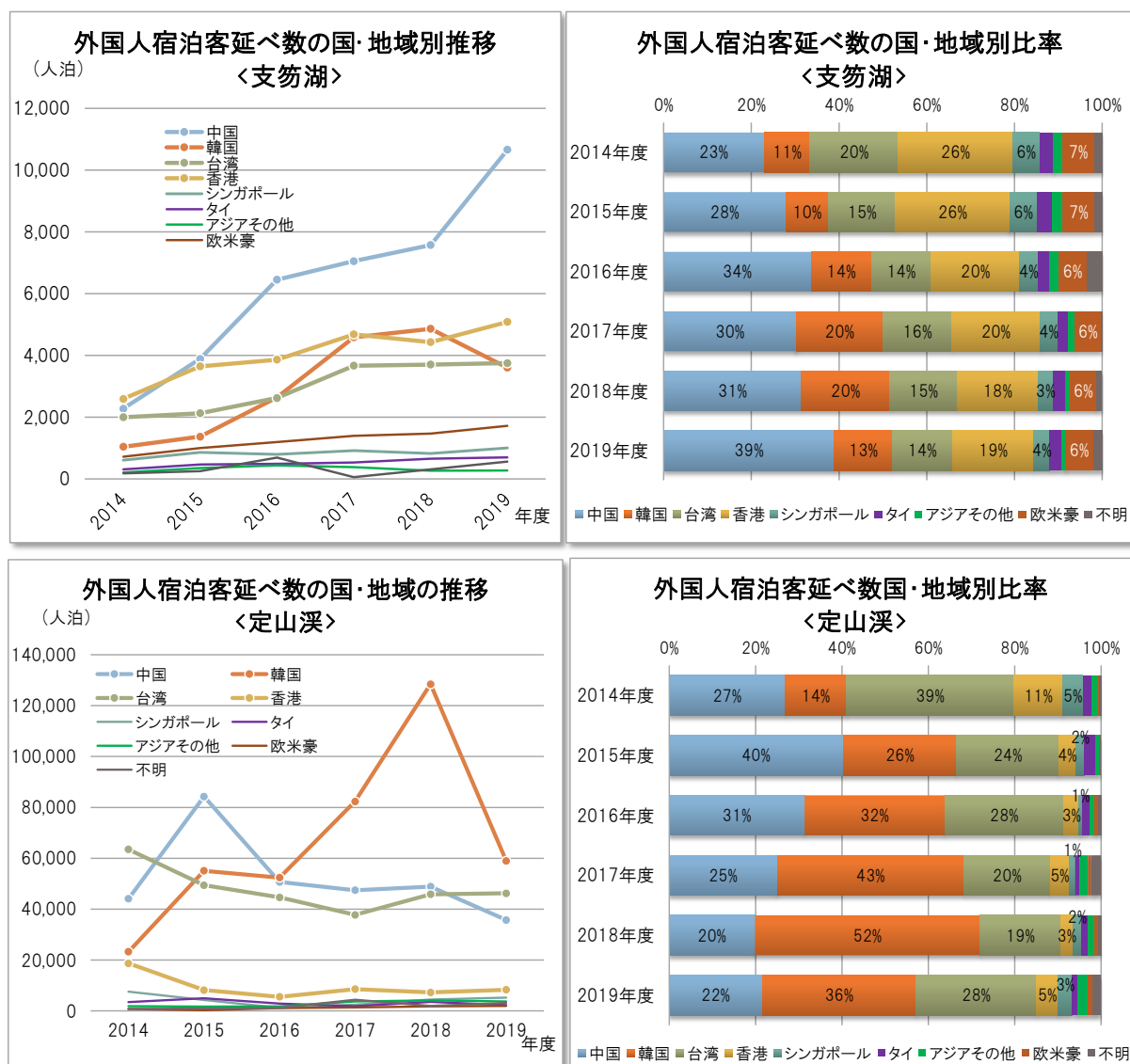
※延べ宿泊者数の補正：コロナ禍の影響を受けた2019年度の2-3月の数値を、過去3年間2016-2018年度の2-3月の平均比率で算出し、影響を受けていなかったと仮定した2-3月数値による2019年度合計値を算出。

図 2-8 外国人宿泊客延べ数（月別）



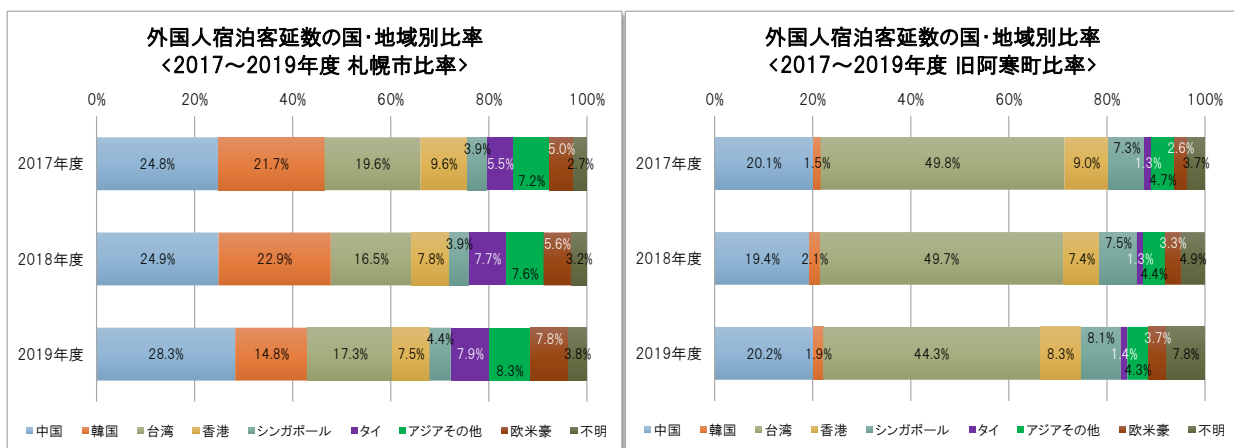
（千歳市及び札幌市からの提供データより作成）

図 2-9 外国人宿泊客延べ数内訳の推移



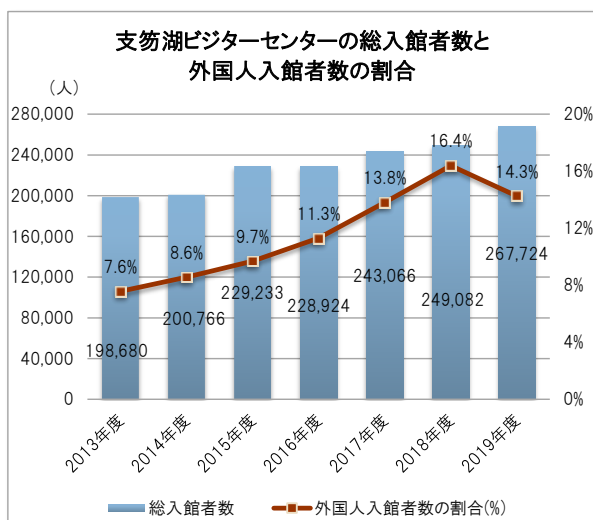
（千歳市及び札幌市からの提供データより作成）

図 2-10 外国人宿泊客延べ数内訳の推移(札幌市、旧阿寒町(阿寒湖))



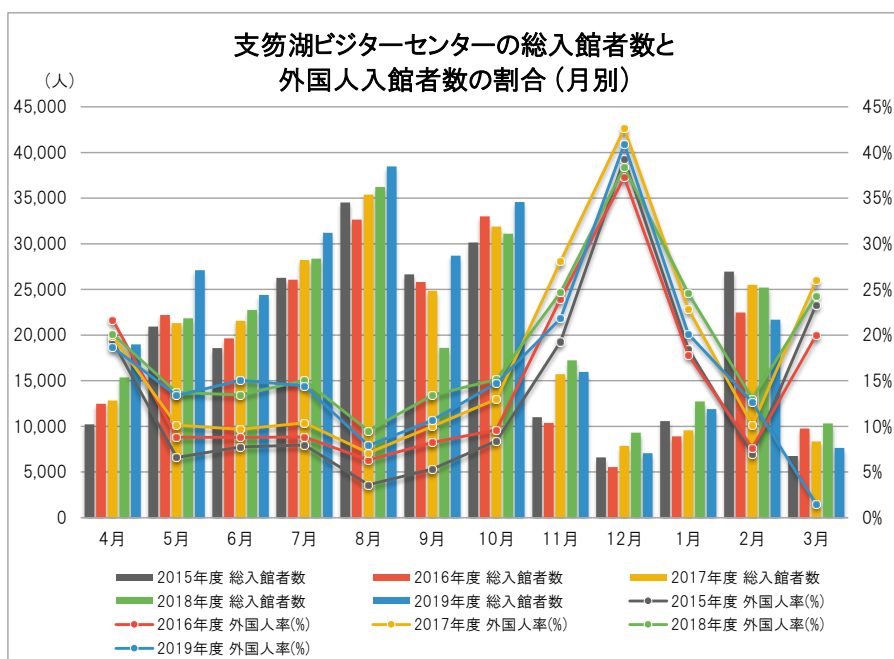
(「札幌の観光」及び釧路総合振興局観光入込客数の掲載データより作成)

図 2-11 支笏湖ビジターセンター入館者数と外国人比率の推移



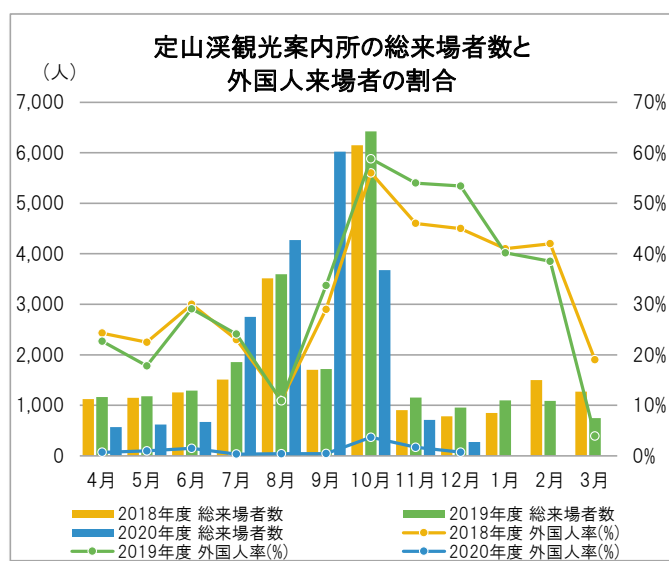
(環境省提供データより作成)

図 2-12 支笏湖ビジターセンター入館者数(月別)



(環境省提供データより作成)

図 2-13 定山溪観光案内所入館者数（月別）

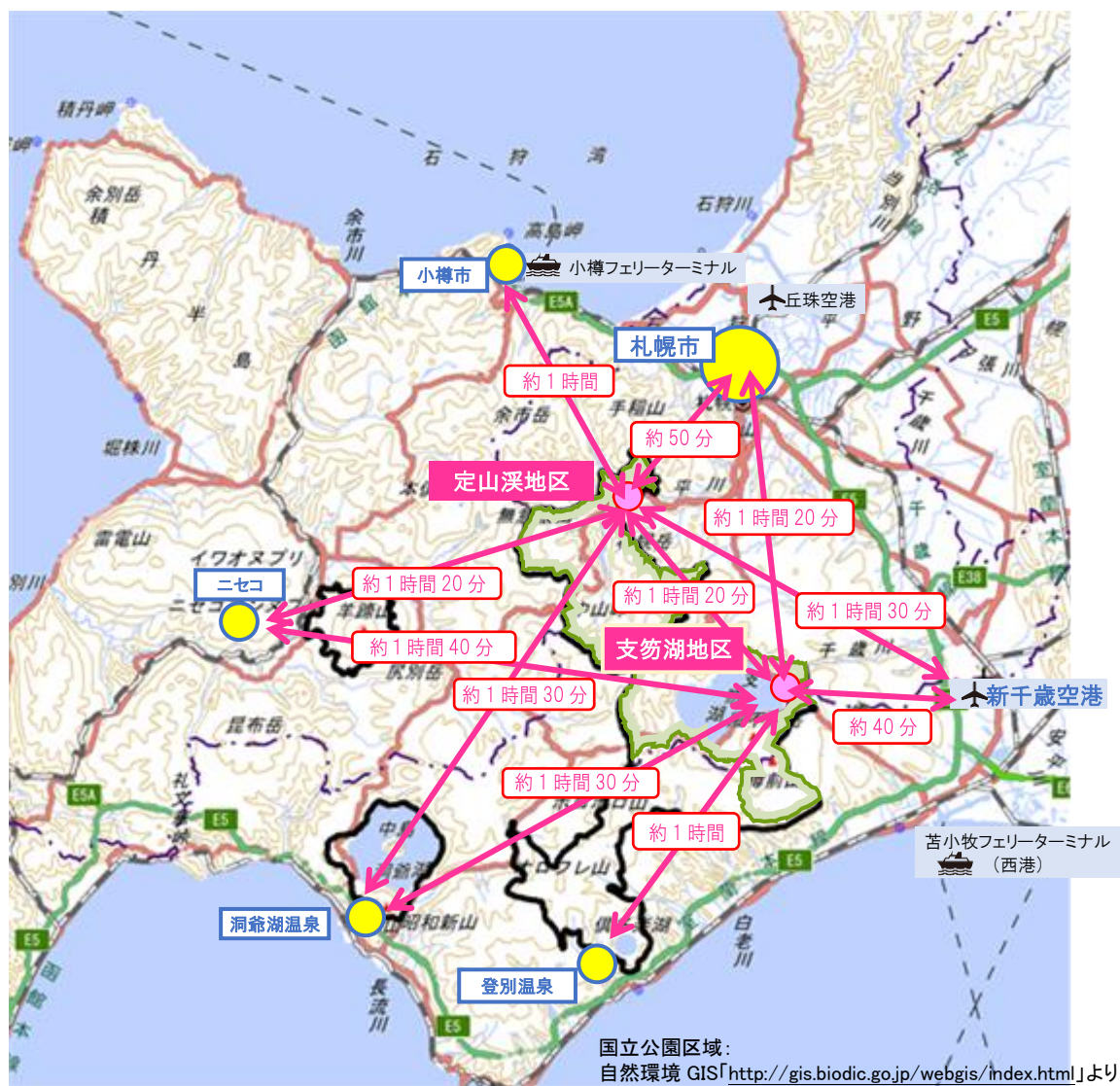


（定山溪観光協会提供データより作成）

※2020年度は、12月23日までの値。

札幌市街地からの所要時間（車）は、支笏湖地区が 1 時間 20 分、定山溪地区が 50 分である。また、北海道の玄関口として年間約 170 万人※の外国人が利用する新千歳空港からの所要時間は、支笏湖地区が 40 分、定山溪地区が 1 時間 30 分である。その他、スキーリゾートとして有名なニセコ、主要温泉地の登別、洞爺湖からも 2 時間圏内に位置する。

図 2-14 支笏湖・定山溪地区周辺の主要観光地と車によるアクセス時間



支笏洞爺国立公園 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区
主要観光地

アクセス時間:

支笏湖温泉及び定山渓温泉から、札幌市(大通駅)、小樽市(JR 駅)、ニセコ(JR 駅)、登別温泉と洞爺湖温泉の中心部へのネット検索による、おおよその到達時間

2.4. 支笏湖・定山溪地区の利用を検討するうえで重要な観光動向

【アドベンチャー・トラベル】

自然との関連性、身体活動、異文化体験のうちの2つの要素を含む旅行形態は、アドベンチャー・トラベル(Adventure Travel:AT)と呼ばれ、欧米を中心に大きな観光市場となっている。北海道における自然体験活動は、国立公園の優れた自然、スキーに最適な雪、先住民族のアイヌ文化など、ATの要素に恵まれていることから、コロナ終息後において国内外から関心を集めるものと想定される。2021年にAT関連の最大のカンファレンス・商談会のアドベンチャー・トラベル・ワールドサミット(ATWS)が北海道で開催される。

【ワーケーション】

コロナ禍においてオンライン業務やテレワークが浸透したことから、自然の中でテレワークを行い、仕事の合間に自然体験アクティビティを楽しむなど「ワーケーション」という働き方が注目されている。遊休施設の活用や利用の平準化を図るうえでも、また地域の関係人口増加の観点からもワーケーションの取組みが期待される。

【サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）】

SDGs^{*}の浸透や観光資源のオーバーユース^{**}への懸念から、環境に配慮した持続可能な観光への関心が高まっている。2007年に発足した国際非営利団体GSTC(グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会)が観光産業や観光地向けの国際指標GSTC-Dを開発し、管理・普及活動を行っており、欧米の富裕層はこの認証を受けた観光地でないと旅行先に選択しないなどの動きも出ている。国内では、GSTCと連携した国際的な認証団体から表彰や認証を受けるための取組みが各地で始まっており、2020年6月には観光庁によりGSTC-Dをベースにした「日本版持続可能な観光ガイドライン」が策定された。

※SDGs(エス・ディー・ジーズ:持続可能な開発目標):

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられた。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

「https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf」より

※オーバーユース:

自然環境分野では国立公園等自然地域への過剰利用として用いられることが多い。利用者が特定の歩道や登山道に集中することにより、歩道周辺の裸地化をはじめとして自然環境の改変や生態系の攪乱のほか、トイレ等の施設が不足している状態が生じる。このような状態を生じる又は生じさせる利用のことを総称して使われている。「<https://www.eic.or.jp/ecoterm/?act=view&serial=4466>」より類似の言葉として、「オーバーツーリズム」がある。

オーバーツーリズム:特定の観光地において、訪問客の著しい増加等が、地域住民の生活や自然環境、景観等に対して受忍限度を超える負の影響をもたらしたり、観光客の満足度を著しく低下させるような状況。

「<https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/over-tourism/>」より

※GSTC:(Global Sustainable Tourism Council グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会)

持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に、2007年に発足した。2008年に観光産業向けの指標(GSTC-I:Global Sustainable Tourism for Industry)、2013年は観光地向けの指標(GSTC-D:2019年に改定)を開発し、管理・普及活動を行っている。

「日本版持続可能な観光ガイドライン 2020年6月」より

※GSTC-D:(Global Sustainable Tourism Destination Criteria)持続可能な観光地の国際基準

GSTC-Dは、国連において、観光地が「最低限順守すべき項目」と位置付けられ、加盟国で順守が求められており、国際的に汎用性の高い優れた国際基準である。

「日本版持続可能な観光ガイドライン 2020年6月」より

【脱炭素社会への取組み】

2020(令和2)年10月、菅総理大臣により「2050年までに温室効果ガス排出ゼロ、カーボンニュートラル※、脱炭素社会の実現をめざす」と宣言され、地球温暖化対策の取組みが加速している。再生可能エネルギーやCO₂を排出しない移動機関の利用推進など、国立公園利用の取組の随所に脱炭素対策を組み入れていくことが求められる。

※カーボンニュートラルの定義(環境省):

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が、自らの責任と定めることが一般に合理的と認められる範囲の温室効果ガス排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部を埋め合わせた状態をいう。

http://offset.env.go.jp/about_cof_cn.html より

2.5. 支笏湖・定山溪地区の強みと課題

2.5.1. 支笏湖地区、定山溪地区の強み

新千歳空港や札幌都心部から短時間でアクセスできることは、他の自然観光地にはない大きな強みである。

【支笏湖地区の強み】

透明度が高く、動力船の利用が規制された静かな支笏湖の環境、この自然環境を活用したアクティビティ、そして温泉、これらが支笏湖地区の強みである。支笏湖のほか、樽前山など手軽に支笏湖の眺望を楽しめるハイキングルートは他にない魅力である。

宿泊施設の数少なく、地域関係者がまとまっていることから、地域が一体となった取組を進めやすいことも支笏湖地区の強みである。

【定山溪地区の強み】

自然湧出している豊富な温泉と収容力のある宿泊施設、そして温泉宿泊施設から徒歩でフォトジェニックな溪谷美を手軽に楽しむことができることは定山溪地区の強みである。

また、紅葉をはじめ四季を通じて楽しめるハイキングや散策のほか、観光果樹園や札幌国際スキー場等の周辺施設において、多様な体験活動ができること、さらに、札幌市民の温泉地として親しまれていることも定山溪地区の魅力である。

2.5.2. 支笏湖地区、定山溪地区に共通する課題

<コロナ禍において>

- ・コロナ禍により、観光事業者は甚大な影響を受けていることから、雇用の維持や人材育成等、観光事業者の存続、経営の安定化にむけての対応が最優先課題である。
- ・国内移動の自粛期間においては、マイクロツーリズム※を推進し、日帰り利用が中心の近郊在住者の宿泊滞在を推進することが必要である。これまで見過ごされてきた身近な地域の魅力を再発見、再確認する機会としていくことが求められる。

※マイクロツーリズム: 自宅から1~2時間で行ける範囲の旅行。 <https://www.hoshinoresorts.com/sp/microtourism/>より

国立公園満喫プロジェクト有識者会議の委員でもある株式会社星野リゾートの代表星野佳路氏が、遠方や海外への旅行に対し、3密を避けながら地元の方が近場で過ごす旅のスタイルを提唱した。

- ・国外移動が制限される期間では、道内外の国内需要を取り込み、空港や札幌都心部に近い強みをアピールしつつ、来訪者のリピート化をめざすことが、安定した集客のために必要となる。

<コロナ沈静後>

- ・コロナ禍以前に来訪の多かった中国、韓国、台湾等のアジア圏の外国人旅行者の早期回復が求められるが、一方で、国際情勢等の影響リスクを考慮すると、特定の国・地域に過度に集中することがないように、欧米豪等を含む多様な国・地域からの誘致を図る必要がある。

【支笏湖地区の課題】

美笛の滝、オコタンペ湖と美笛を結ぶ道道など、以前楽しめた魅力地点が当面利用できない状況となっているため、これを補う魅力づくり（自然体験活動のメニュー）が必要となっている。

また、宿泊施設の収容力が限られており、また、新千歳空港から車で約 40 分の距離にあることから、気軽な日帰りでの滞在と、それに対応したメニューの充実が求められる。

休日と平日、夏季と冬季など、利用が集中する時期とそうでない時期の差が激しく、利用環境の面からも安定した観光事業運営のためにも、利用の平準化が求められる。

湖の静けさを守るために行われてきた地域の取組みや湖面利用等のルールを、国内外に発信し、環境保全への意識が高い利用者層へアピールすることも、質の高い利用環境を維持するうえで必要である。

【定山溪地区の課題】

定山溪地区には、自然環境や自然体験活動等について総合的に案内を行う拠点施設が存在せず、当該地域が国立公園であるという認知度も低いことから、自然環境や国立公園に関する情報提供の強化が望まれる。

札幌都心部から車で約 50 分の距離にあることから、宿泊滞在メニューをより多彩なものとするためにも、日帰りの自然体験プログラム等の充実が必要である。自然景観に恵まれた国立公園の立地を生かした溪谷周辺の散策、ハイキング等のプログラムや、周辺の札幌国際スキー場等と宿泊施設とが連携したツアー商品等を開発し、滞在メニューを増やすことと、その周知が求められる。

3. 目標

3.1. 将来像

北海道の玄関である新千歳空港や、大都市札幌に近接しているという利便性と、原始性が高く静寂な自然環境やフォトジェニックな自然景観を活かし、さらに、国立公園外の自然体験施設や文化施設との連携を深めることにより、カヌー、ダイビング、トレッキングやハイキング、サイクリング、バックカントリースキー、ネイチャーフォト、果物狩りなど多彩かつ満足度の高い自然体験プログラムを提供する。それにより、国内外の多様な国・地域から旅行者が訪れ、自然体験活動への参加やワーケーション等の様々な形態で滞在し、地域の観光や関連産業を活性化させる。同時に、国立公園における適切な利用と自然環境保全の仕組みを構築し、持続可能な地域づくりを進める。

3.2. ターゲットとする利用者

感染対策のため国内外の移動が制限されるコロナ禍においては、旅行需要の回復状況による三つの段階、そしてコロナ終息後の段階、あわせて四つの段階に分け、以下のように、ターゲットを想定する。

	ターゲット
段階Ⅰ (近郊需要開拓期)	国内での移動が制限される時期： 対象：日帰り利用が中心であった近郊在住者 宿泊による魅力をアピールするとともに、多様な自然体験メニューを提供することにより、自然体験の魅力を発見、または再確認する機会として、近郊需要をあらためて開拓する。
段階Ⅱ (国内需要回復期)	海外移動は制限されるが、国内需要は回復する時期： 対象：道内、道外在住者 従来の1泊周遊型のほか、滞在型あるいは近郊から通うリピート型利用を推進する。
段階Ⅲ (海外需要回復期)	一部の国・地域を除き、海外需要が回復する時期： ①対象：コロナ禍前と同様のアジア圏旅行者 (中国、韓国、台湾、香港等アジア圏) ②対象：自然と温泉を楽しむアジア富裕層 ①及び②は、コロナ禍以前の主要な外国人旅行者層 ③対象：持続可能な観光を志向する旅行者 自然環境保全や持続可能な観光、旅行に関心の高い層
段階Ⅳ (完全回復期)	感染症対策のための海外移動の制限が解除される時期： ①対象：コロナ禍前と同様のアジア圏旅行者 (中国、韓国、台湾、香港等アジア圏) ②対象：自然と温泉を楽しむアジア富裕層 ③対象：持続可能な観光を志向する旅行者 ④対象：充実した自然体験を求める欧米圏旅行者 アドベンチャートラベル旅行者：自然の中で滞在とアクティビティを志向する旅行者等 国立公園でのアクティビティを求める欧米を中心としたA T旅行者層

3.3. 基本方針

3.1. に示した将来像を実現するための7つの基本方針を以下に示す。

(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知

コロナ禍で身近なレジャーやマイクロツーリズムの重要性が叫ばれる中で、特に大都市圏に近接している定山溪・支笏湖地区は、そうした需要の受皿として重要な存在となっている。

しばらく外国人の利用が見込めない状況を踏まえ、当面は、この地域を訪れる日本人旅行者をターゲットに、当該地域の魅力を様々なツールにより周知することで、より上質な自然体験活動を楽しむことができ、繰り返し訪れたい国立公園地域をめざす。

外国人旅行者に対しては、オンラインによる発信を継続し、コロナ終息後の来訪を誘致する。

(2) 自然体験プログラムの充実

安全性の確保やオーバーユースに配慮しながら、優れた自然景観と体験を楽しめる国立公園ならではの自然体験プログラムの拡充、開発を行う。特に、カヌー・カヤック、スタンドアップパドル、登山・トレッキング、サイクリング、スノーシュー、バックカントリースキーなどについて、ガイド同伴のプログラムを開発・充実させ、誰もが気軽にツアーに参加できる体制を整備する。また、ガイド人材は、プログラムの質や量に影響することから、ガイド人材の育成と技術向上を促進する。

(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理

近年、アドベンチャートラベル(AT)が世界的に注目される中で、国立公園はそのフィールドとして非常に適した環境を有しており、外国人富裕層などから注目を浴びている。特に支笏湖・定山溪地区は、札幌都市部や空港に至近であり魅力的な体験資源が多いことから、今後、国内外を問わず利用の拡大が想定される。

そのため、将来的には海外からのAT旅行者誘致を進めつつ、そのフィールドとなる各種歩道、水辺等の保全や維持管理をはじめ、キャンプ場や宿泊施設等の滞在施設の充実を図っていく。

なお、自然体験のフィールドの整備や管理に関しては、安全性の確保やオーバーユース等を回避するため、行政及び受益者（利用者団体等）の協働による管理のあり方を検討し、その体制を整備する。

また、フィールドを適切に利用するための案内、誘導等の施設やサービスを拡充する。

(4) サステイナブル・ツーリズム(持続可能な観光)の実現

持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のSDGsが世界的な広がりを見せる中、適切な利用と自然環境保全を両立させ、国立公園のサステイナブル・ツーリズムを実現する。関係者の環境意識を高めるとともに、電気自動車や自転車等の導入や再生可能エネルギー利用を高める等、CO₂排出を削減する取組みを様々な分野、場面で取り入れる。

国立公園の景観整備も持続可能な観光の推進に向けた重要なテーマであり、国立公園内の道路沿線や街区の景観改善などを進める。持続可能な利用のための様々なルールづくりやその普及を官民連携で推進する。

（５）多様な滞在スタイルの推進

コロナ禍の影響により、国民の生活や仕事の様式は変化してきており、テレワークや仕事とレジャーを両立させるワーケーションという概念が新たな生活様式として普及しつつある。支笏湖定山溪地域の楽しみ方の一つとして、ワーケーションの普及を推進し、未利用の施設や資源、時間帯を活用し、宿泊事業等との協働により、その環境整備を図る。

（６）周辺地域との連携、他の国立公園との連携

支笏湖地区と定山溪地区の連携強化をはじめ、恵庭溪谷、果物狩り、縄文遺跡群やアイヌ文化体験、ホーストレッキング等の国立公園区域外の資源、施設、体験活動と連携し、新たな公園の魅力を創出する。また、他の国立公園等と連携した長期（一週間以上の期間等）の自然体験プログラムづくりを促進する。

（７）自然体験活動の推進体制を強化

自然体験活動の推進に当たっては、既存の推進組織の強化を図るとともに、協議会構成員や関係機関、関連事業者と密接に連携し、各取組を効果的、効率的に実施するための体制づくりを進める。

3.4. 目標値

国内外の旅行需要の動向が見定められない状況ではあるが、当面の目標年次を2025年あるいは2025年度として、入手可能な指標について数値目標を設定する。2025年より前に目標値を達成した場合や社会状況、旅行需要の変化が見込まれる場合は、目標値をあらためて設定する。

入手可能な指標は、各種の統計項目となるが、なるべく、現場で計測されたものや、実数に近いものを使用する。

各種統計値は、利用の「量」を示すものに限られる。満足度やリピート回数等の利用の「質」に関する指標については、定期的なアンケート調査が必要となるため、今後の検討課題とする。また、目標値は設定しないが、支笏湖・定山溪地区の旅行者の利用動向の参考とするため、主要施設の利用者数を収集する。

目標値1：宿泊客延べ数（年度合計）

訪日外国人の需要回復に時間がかかることから、地域の観光産業を維持するためにも道内外の旅行者需要の回復、確保が重要である。コロナ禍の影響を受けていない2019年1月から12月までの直近1年間の宿泊客延べ数を2020年度以降の回復目標値とする(表3-1, 3-2)。

(支笏湖地区：千歳市提供データ、定山溪地区：札幌市提供データによる)

目標値2：日帰り利用者数（年度合計）

国立公園の利用は宿泊だけではなく、日帰りの利用も多い。国内外を問わず、全体の利用動向を把握するうえで重要な指標となる。コロナ禍の影響を受けていない2019年1月から12月までの日帰り利用者数を2020年度以降の回復目標値とする(表3-1, 3-2)。

(支笏湖地区：千歳市提供データ、定山溪地区：札幌市提供データによる)

目標値3：季節変化（宿泊客延べ数最少月/宿泊客延べ数最多月：年度内変化）

安定した観光事業経営のために、また質の高い利用環境を確保するために、利用の平準化を図ることが必要である。コロナ禍の影響を受けていない直近2年間の変化率(最多月の宿泊客延べ数を100としたときの最少月の比率(図3-1))から、支笏湖地区は変化が激しいことから目標値を最多月の半数の50を目標値とする。定山溪地区では2019年、2018年の数値から目標値を70とする(表3-1, 3-2)。(目標値1の月別データより算出)

目標値4：訪日外国人旅行者数（年合計）

アンケート調査による推計値ではあるが、訪日外国人の宿泊、日帰りの両方が含まれた利用の指標となる。コロナ禍を受けていない2019年の推計値を回復目標値とする(表3-1, 3-2)。

(環境省「国立公園における訪日外国人利用者数の推計調査」データによる)

目標値5：訪日外国人宿泊客延べ数（年度合計）

コロナ禍の影響を受けていない2019年1月から12月までの外国人宿泊客延べ数を2025年度までの回復目標とする(表3-1, 3-2)。

(支笏湖地区：千歳市提供データ、定山溪地区：札幌市提供データによる)

参考比較値：支笏湖・定山溪地区及び周辺的主要施設の利用者数

国立公園内外の主要施設や道の駅等の利用状況を収集し、目標値の参考とする(表3-3, 3-4)。

(千歳市、苫小牧市、札幌市、環境省等を通じてデータを入手)

表 3-1 指標目標値

	指標	期間	支笏湖地区	定山溪地区
目標値1	宿泊客延べ数：人泊	年度	157,000	1,138,000
目標値2	日帰り利用者数：人	年度	913,000	419,000
目標値3	季節変化 (最少月宿泊客延べ数/最多月宿泊客延べ数)	年度	50/100	70/100
目標値4	訪日外国人旅行者数	年	40,000	131,000
目標値5	訪日外国人宿泊客延べ数	年度	27,000	209,000

表 3-2 指標目標値の算出

指標	支笏湖地区	定山溪地区
宿泊客延べ数：人泊	2019 年：157,800 2018 年：154,600 目標値は 100 以下切り捨て	2019 年：1,138,597 2018 年：1,194,753 目標値は 100 以下切り捨て
日帰り利用者数：人	2019 年：913,800 2018 年：883,900 目標値は 100 以下切り捨て	2019 年：419,534 2018 年：439,055 目標値は 100 以下切り捨て
季節変化 (最少月宿泊客延べ数/最多月 宿泊客延べ数)	2019 年 最少 11 月/最多 8 月 7,900/27,000=29/100 2018 年 最少 4 月/最多 8 月 8,000/26,000=31/100 いずれも 50 に満たないことから目 標値は 最多月の半数の 50 とする。	2019 年 最少 4 月/最多 1 月 78,490/119,330=66/100 2018 年 最少 4 月/最多 1 月 78,354/120,349=65/100 2 年間の平均をとって目標値は 最 多月 100 の 70 とする。
訪日外国人旅行者数：人	2019 年： 40,848 2018 年：39,881 目標値は 100 以下切り捨て	2019 年： 131,021 2018 年：139,548 目標値は 100 以下切り捨て
訪日外国人宿泊客延べ数：人泊	2019 年： 27,149 2018 年：23,000 目標値は 100 以下切り捨て	2019 年： 209,759 2018 年：237,639 目標値は 100 以下切り捨て

図 3-1 宿泊客延べ数の季節変化

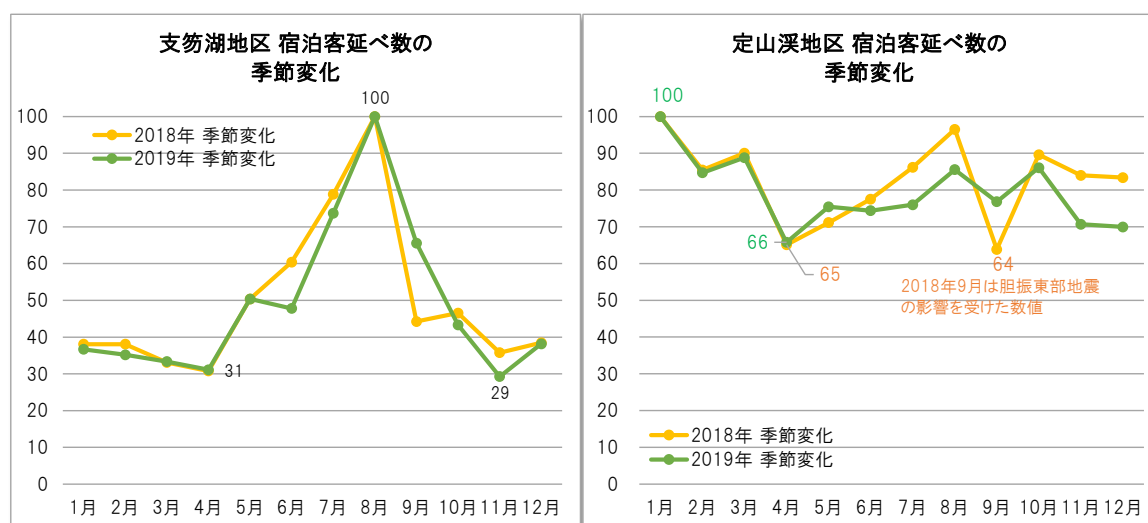


表 3-3 参考比較値：支笏湖地区周辺の主要施設等の利用状況

施設名	所在地	種別	数値	年次	備考
国立公園内					
支笏湖ビジターセンター	千歳市	利用者数(人)	267,724	2019 年度	外国人 38,176
			249,082	2018 年度	外国人 40,839
			243,066	2017 年度	外国人 33,580
モラップキャンプ場	千歳市	利用者数(人)	20,822	2019 年度	
			17,503	2018 年度	
			18,770	2017 年度	
美笛キャンプ場	千歳市	利用者数(人)	35,439	2019 年度	
			24,632	2018 年度	
			25,754	2017 年度	
樽前山	苫小牧市	利用者数(人)	30,466	2019 年度	外国人(概数)1,686 人
			28,454	2018 年度	外国人(概数) 994 人
			33,605	2017 年度	
道の駅					
サーモンパーク千歳	千歳市	利用者数(人)	417,952	2019 年度	
			406,434	2018 年度	
			398,006	2017 年度	
ウトナイ湖	苫小牧市	来場者数(人)	777,220	2019 年度	
			736,646	2018 年度	
			757,831	2017 年度	
主要観光施設					
サケのふるさと千歳水族館	千歳市	利用者数(人)	120,049	2019 年度	
			118,452	2018 年度	
			118,411	2017 年度	
ウポポイ(2020 年7/12 オープン)	白老町	利用者数(人)	198,485		2020 年7/12-2021 年1/12

(環境省、千歳市、苫小牧市より提供、ウポポイは「<https://www.asahi.com/articles/ASP1F778JP1CIIPE002.html>」より)

表 3-4 参考比較値：定山溪地区周辺の主要施設等の利用状況

施設名	所在地	種別	数値(人)	年次	備考
国立公園内					
豊平峡	札幌市	利用者数(人)	89,411	2019 年度	
			70,331	2018 年度	
			86,758	2017 年度	
定山溪自然の村	千歳市	利用者数(人)	23,588	2019 年度	
			20,817	2018 年度	
			20,187	2017 年度	
定山溪観光案内所	札幌市	利用者数(人)	22,279	2019 年度	外国人 8,070 人
			21,712	2018 年度	外国人 7,567 人
周辺観光施設					
札幌市アイヌ文化交流センター	札幌市	利用者数(人)	58,241	2019 年度	
			55,083	2018 年度	
			53,006	2017 年度	
札幌国際スキー場	札幌市	リフト利用延べ 人数(人)	1,908,000	2019 年度	
			1,895,000	2018 年度	
			1,811,000	2017 年度	

(観光案内所は定山溪観光協会より提供、ほかは「札幌の観光」より)

4. 取組

前章の 3. 3. に掲げた基本方針を踏まえ、推進協議会の構成機関が協力して、以下の取組を進める。

取組は、各実施主体にてスケジュールを作成し実行するものとする。

2023 年度以降の取組を 7 つの基本方針別に整理し、以下に示した。

7 つの基本方針別の取組件数 (2023 年度以降)

基本方針	取組件数
(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	25
(2) プログラムの充実	22
(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	31
(4) サステイナブル・ツーリズムの実現	13
(5) 多様な滞在スタイルの推進	7
(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	18
(7) 自然体験活動の推進体制を強化	4
全般	2

各機関の取組

共通地区	支笏湖地区	定山溪地区
------	-------	-------

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
北海道森林 管理局 計画保全部			引き続き、各機関の取組において国有林野のフィールド利用等があれば、できる限り協力する。	同左
北海道森林 管理局 石狩森林管理署			今後も、石狩森林管理署管内での国有林野の利用など要望があれば、出来る範囲で協力していく。	同左
北海道経済 産業局	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しながらATWS2023の開催の準備を行う。	2025年の大阪・関西万博での北海道のATのPR等、ATWS2023終了後も、関係機関と連携し、欧米を中心としたインバウンド誘客に資する取組を実施する。
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	引き続きATWS2023に向けて、各種中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発を支援する。	ATWS2023に終了後も、各種中小企業施策を活用し、事業者等が行う新たな滞在メニューやプログラムの開発を支援する。
北海道運輸 局	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。	観光庁事業の活用、JNTOとの連携などを通じて、北海道に関する認知度向上に継続して取り組む。
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	ATWS2023において支笏湖周辺のエクスカーションを実施するほか、引き続きAT事業の実施に際し観光庁事業を活用するなどの支援を行う。	引き続き各省庁の予算活用に向けた相談対応など支援を行う。
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	③ 他の国立公園との連携	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。	観光庁事業の活用、JNTOとの連携などを通じて継続して取り組む。
北海道開発 局札幌開発 建設部	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	② 情報発信の機会の拡充	地域と道路管理者が一体で、秀逸な道の区間の磨き上げを行っていく。(継続実施)	同左(2023年度以降継続)
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	・国道230号における道路利用者への安全安心利用の普及啓発(安全情報マップの配布等)。マップは道の駅や各観光施設に配布(継続実施)。 ・日本語のほか、英語版マップの配布を継続実施	同左(2023年度以降継続)
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	国道における高速道路のナンバリング標識整備、道路案内標識、交差点名標識の地名表示、道路情報板の英語表記の適正化(継続実施)	同左(2023年度以降継続)

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
北海道開発 局札幌開発 建設部	(3) 国立公園にふさわしい自然体験 フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持 管理の充実	サイクルツーリズムを推進 するためマップを完成させて、 配布する。	同左（2023年度以降継続）
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験 フィールドの充実とその管理	③ 魅力的な景観の 保全、景観形成	視点場の整備として、地域 で検討し決定したパーキン グ名称の標識を設置予定(支 笏湖地区)	2023年度で完了予定
北海道経済 部観光局	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知	④ 海外に向けた P R	・ ATWS2023の開催 ・ ATWS2023終了後においてもさらに北海道のATを推進するため、各種PR等を実施	北海道におけるATを推進するための各種PR等を実施
	(2) 自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	ATWS2023終了後においてもさらに北海道のATを推進するため、引き続き各種人材育成の取り組みを実施予定	北海道におけるATを推進するため、引き続き各種人材育成の取り組みを実施予定
			ATに対応したガイドの認定 制度の通年運営試行を実施 予定	ATに対応したガイドの認定 制度を施行予定。
	(7) 自然体験活動の 推進体制を強化	② 体制強化のための調査、計画	北海道アウトドア活動振興 推進計画の推進（北海道知 事認定ガイドの育成他）	同左
北海道胆振 総合振興局	(3) 国立公園にふさわしい自然体験 フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持 管理の充実	樽前山登山道改修事業の実 施予定	樽前山登山道改修事業の継 続実施予定
			定期的な施設点検及び維持 管理の実施	適切な施設点検及び維持管 理の実施
北海道石狩 振興局	(3) 国立公園にふさわしい自然体験 フィールドの充実とその管理	② 利用施設の整備、改善、維持 管理の充実	モラップ線歩道のあり方について関係機関と協議を行う。	協議の内容を踏まえ、モラ ップ線歩道のあり方について方向性を決定し、その内容に基づいて対応を行う。
		② 利用施設の整備、改善、維持 管理の充実	・ 二見定山の遊歩道について、落石防止対策工事を実施する。 ・ 老朽化が著しい施設の改修について、設計委託業務を実施する。	遊歩道の安全対策工事を完了させ、全面開通する。
	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知	① 観光案内所、 WEBサイト等における情報発信	振興局主催、その他のイベント等において、管内観光周遊スポットのひとつとして紹介し、誘客促進を図る。	振興局主催、その他のイベント等において、管内観光周遊スポットのひとつとして、日本語・英語等によりパンフレット、HP、SNS等を活用して紹介し、国内外からの誘客促進を図る。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
札幌市	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知	① 観光案内所、 WEBサイト等 における情報発信	各案内所にて、定山溪の多 言語パンフレットの配布や イベント情報の発信を実施	2023年度の取組内容を継続 予定。
		④ 海外に向けた P R	引き続き、インバウンドの 早期回復に向けた各種プロ モーションを行うとともに、 中長期的な視点では、 観光消費額や滞在日数の増 加を目指し、都市型スノー リゾートのブランド化、欧 米豪等の新たな市場での認 知拡大を図っていく。	インバウンドのコロナ前へ の回復を目指し、2023年度 の取組内容を継続してい く。
	(2) 自然体験プロゲ ラムの充実		定山溪ガイド検定といった 人材育成事業や、集客イベ ント、アクティビティコンテ ンツの推進事業等に対し て、補助を実施	
	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理	② 利用施設の整 備、改善、維持 管理の充実	集客交流拠点施設に求めら れる機能や整備手法につい て、地元と協議を進めてい く。	引き続き地元と協議を進め ていく。
		③ 魅力的な景観 の保全、景観形 成	老朽化した施設の修繕や、 観光客を引込むための滞留 空間の設置、緑が少なく寂し い印象になっていた場所へ の植栽等、魅力的な景観形成 を行う民間事業に対して、 補助を継続実施	2023年度の取組内容を継続 予定
	(4) サスティナブル・ ツーリズムの 実現		持続可能な観光推進のため、 札幌市の取組状況の把握 を行い、効果的な取組を行 うための方針の整理を行う 予定	
	(6) 周辺地域との連 携、他の国立公園 との連携	① 周辺地域との 連携	定山溪観光協会HPやパンフ レットの更新、SNSを利用し た情報発信等、定山溪観光協 会が行う事業に対して、補助 を継続実施	2023年度の取組内容を継続 予定
			2023年度もスノーリゾート としてのブランド化に向け た取組への支援を継続予定	2023年度の取組内容を継続 予定
	(7) 自然体験活動の 推進体制を強化		札幌観光の推進体制の強化 に向けて、DMOの設立も 含めた検討を実施	
苫小牧市	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理	④ 安全、安心な 環境づくり	継続実施(ホームページによ る樽前山登山のマナー・注 意事項等の周知、登山者数の カウント、英語表記リーフレ ットの配布)	同左

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
千歳市	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知	② 情報発信の機 会の拡充	「千歳・恵庭・北広島広域 観光推進協議会」事業にお ける、3市連携による情報 共有	「千歳・恵庭・北広島広域 観光推進協議会」事業の取 り組みを継続し、石狩南部 の魅力を体感できる満足度 の高いルートを創出し、地 域活性化を図る。
		④ 海外に向けた P R	新型コロナの状況を見なが ら対応	ウィズコロナ期、アフター コロナの各状況に応じて効 果的な情報発信を行い、イ ンバウンドの誘客を図る。
	(2) 自然体験プログ ラムの充実	③ 滞在メニュー やプログラムの 開発、実施	支笏湖ビジターセンターの 実施する自然体験学習プロ グラムへの補助金交付によ る支援継続	同左
			2023年ATWS北海道開催に 向けたプロモーション	高付加価値で上質な体験を 提供し、長期滞在を楽しめ る大都市近郊型AT拠点とし ての機能を確立する。
	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理	① 情報提供・案 内機能の充実	支笏湖ビジターセンターの 案内機能強化のため、運営 機関への支援を継続する。	同左
	(5) 多様な滞在スタ イルの推進	① ワークショ ン推進のための 検討、調査	千歳観光連盟、支笏湖運営 協議会、温泉旅館組合など と連携して市全体でワーク ーションの推進を検討	関係団体との連携によりワ ークーション環境を整備 し、観光振興を図る。
	(6) 周辺地域との連 携、他の国立公園 との連携	① 周辺地域との 連携	シーニックバイウェイへの 参画など支笏湖と定山溪、ま た恵庭溪谷等の周辺エリア と連携したプログラムにつ いて、関係各機関との情報 共有のなかで検討	支笏湖と定山溪、恵庭溪谷等 の周辺エリアとの連携強化 を図る。
			世界文化遺産に登録された キウス周堤墓の世界遺産を 活用し、周辺地域と連携し たツアー商品等の開発、造 成	縄文文化をテーマに周辺地 域及び北東北縄文遺跡群所 在地との連携強化を図る。
恵庭市	(2) 自然体験プログ ラムの充実		盤尻地区における自然体 験、歴史教育体験プログラ ムの開発及びガイド育成に 向けた調整	盤尻地区における自然体 験、歴史教育体験プログラ ムの開発及びガイド育成に 向けた調整・実施
	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理		盤尻地区における広報拠点 施設の設置に向けた調整	盤尻地区における広報拠点 施設の設置に向けた調整・ 着手
	(4) サスティナブル・ ツーリズムの 実現		盤尻地区におけるレンタカ ー、タクシー、バス会社等 と連携した2次交通の確保 に向けた調整	盤尻地区におけるレンタカ ー、タクシー、バス会社等 と連携した2次交通の確保に 向けた調整・実施

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
恵庭市	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	周辺地域との連携により周辺エリアにおける周遊プログラムを検討	周遊策について協議し、周辺地域との連携強化
			支笏湖地区との連携も見据え、恵庭溪谷における紅葉ツアー等の誘客事業を検討・実施	恵庭溪谷の更なる利用拡大のため、駐車場の拡大や四季に応じたツアーの実施等について要望・調整
			・支笏湖地区との連携も見据え、引き続き緑のふるさと森林公園でのホーストレッキング事業を実施 ・また、経年劣化している公園内の林道の整備や維持修繕を実施	より一層の公園の魅力向上を目指すため、新たな観光プログラムの確立を検討
			ガーデンフェスタのレガシーを引き継ぎながら、花の拠点（はなふる）を会場に花とくらし展を開催。近隣の花と緑の観光資源などと連携及びPR	花の拠点（はなふる）が花のまち恵庭及び北海道の花と緑の文化を体感できる観光交流拠点となるよう、近隣の花と緑の観光資源との連携強化
北海道観光振興機構	(1) 支笏湖・定山渓地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	・多言語サイト『GoodDay北海道』の言語（簡体字、韓国語など）ページの拡充を図る。サイト閲覧数増加のための施策を講じる。	観光における総合サイトとして、利用者にとって必要とされる内容の充実化と、情報や趣向の変化に対して素早く対応する俊敏性を強化
			機構HPでの情報発信に加え、当機構における個別事業において、その都度国内外への情報発信・PRを実施	支笏湖・定山渓エリアへの観光客増加
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	ATWS2023の9月実施に向けての準備および大会本番の成功	ATWS2023を契機にアドベンチャートラベルの全道への浸透と道内外へのPR活動を進める。
			地域が取り組む滞在メニュー（自然体験）やプログラムの開発、地元地域での活動の気運醸成などに対し、積極的に支援を行う。	地域が補助金に頼らなくても自立できる観光地となることが事業の目的。本事業で自立できる観光地を増やしていく。
	(5) 多様な滞在スタイルの推進		ワーケーション推進、およびナイトタイムコンテンツの充実について、「地域の魅力を活かした観光地づくり事業」にて実施予定	単年事業につき中期目標はないが、ワーケーションの拡充・ナイトタイムコンテンツの利用者増加が目標となる。
北海道アドベンチャートラベル協議会 (HATA) 北	(1) 支笏湖・定山渓地区の魅力を国内外へ周知	④ 海外に向けたPR	「ATWS北海道実行委員会」に参画し、関係機関と連携しATWS2023の成功にむけた取組を行う。	ATWSへの参加、ホームページによる情報発信などに継続して取り組む。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)	(2) 自然体験プログラムの充実	② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	観光庁調査事業などを活用し、ツアーオペレーターと連携したATツアーの磨き上げを実施予定 観光庁調査事業などを活用し、ガイドのスキル向上などを目的とする研修を実施予定	ツアーオペレーターと連携したATツアーの磨き上げを継続して取り組む。 ガイドのスキル向上のための研修など継続して取り組む。
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	③ 他の国立公園との連携	ホームページの改修を検討	外国人向けHATAホームページに国立公園のリンクを貼り、情報発信を継続
定山溪観光協会	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	①観光案内所、WEBサイト等における情報発信	HPやパンフレットの掲載内容の随時更新を継続	同左
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	紅葉時期の紅葉かっぱバス(ガイド付き観光バス)の運行を継続的に実施	同左
		② ガイド及びガイド事業者の育成、技術向上支援	人材育成事業として「定山溪検定」の実施。定山溪に従事するスタッフの学びの機会をつくる。	より専門的な分野(自然ガイド・登山ガイド)への、学びの機会をつくる
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	英語対応常勤スタッフ1名の配置を継続	同左
			QRサインボードの設置場所選定および設置を継続。既設のサインボードの維持。QRコードから見られる図鑑機能の充実を図る。	・QRサインボードの設置場所選定および設置を継続し、既設のサインボードの維持
	(4) サスティナブル・ツーリズムの実現	② 持続的な利用のためのルール策定と普及	豊平川をはじめ国立公園利用者への利用マナーの啓発	同左
		① 二次・三次交通の充実	・新千歳空港シャトルバスの再開に向けて働きかけ ・定山溪温泉からの国際スキー場へのバス運行のはたらきかけ	利用状況を見て、更なる増便の働きかけ
			自転車利用の便宜を図るため、利用状況を見ながらサイクルラックの設置個所の選定を継続	同左
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	① 周辺地域との連携	ゴンドラライナー号(紅葉時の札幌国際スキー場と定山溪温泉間のシャトルバス)の運行を継続実施	同左
		② 支笏湖地区と定山溪地区との連携	ツアー連携について引き続き検討を継続	同左

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
苫小牧観光協会	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	苫小牧駅前観光案内所でのパンフレット設置、電話や対面による情報提供（継続実施）	同左
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	・道々141号線（樽前錦岡線）の冬季通行止めや倒木等による通行止めの情報等をHPで提供（継続実施）	同左
千歳観光連盟	(1) 支笏湖・定山溪地区の魅力を国内外へ周知	① 観光案内所、WEBサイト等における情報発信	・千歳駅で観光案内を行い、周辺情報の提供を実施。新たに美笛キャンプ場を支笏湖での拠点として観光案内も含めスタッフによる観光案内の実施の継続 ・SNSに関してもfacebook、Instagramを活用した情報発信を行うなど、美笛キャンプ場としてのInstagramやHPのリニューアル、予約制を実施予定	継続実施
		④ 海外に向けたPR	・台湾市場に向け、国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のPRを実施予定 ・台湾、シンガポールなどの東南アジア東アジアでのプロモーションを予定	継続実施
	(2) 自然体験プログラムの充実	③ 滞在メニューやプログラムの開発、実施	2022年実施・検証結果を踏まえ、プログラム商品の販売を検討	継続実施
			台湾市場に向け、国立公園の自然環境を活かした自然保護やSDGsをテーマとした教育旅行素材のオンライン説明会などを予定	継続実施
	(3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	支笏湖ルールの適正利用の推進を継続する他、支笏湖温泉第5駐車場の受益者負担の動向を見ながら連携する。	継続実施
			SNSに関してもfacebook、Instagramを活用した情報発信を行うなど、美笛キャンプ場としてのInstagramやHPのリニューアル、予約制を実施予定	継続実施
	(6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携	② 支笏湖地区と定山溪地区との連携	観光案内所にて支笏湖定山溪地区の情報共有を継続して実施	継続実施

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
恵庭観光協会	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知	① 観光案内所、 WEBサイト等 における情報発信	【観光案内所にて】 ・ 恵庭溪谷から支笏湖・定 山溪への周遊ドライブ案内 ・ 千歳市、千歳観光連盟、支 笏湖ビジターセンター、支笏 洞爺国立公園管理事務所、苫 小牧観光協会からパンフレッ トやチラシ、ポスターなどの 提供を受け配架・掲示など情 報提供を行う	・ 支笏湖・定山溪エリアの周遊 観光の強みを生かした振興局 域・市域を超えたエリア観光 推進のため共同プロモーション (エリアマップ・ルート 化) による周知宣伝に併せ国 立公園等利用方法の啓発活 動 ・ 北広島ボールパーク注目と 来場者へのPR
国立公園支 笏湖運営協 議会	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知		2022年度に整備予定のWEB サイトの充実と運用	同左
	(2) 自然体験プロ グラムの充実	③ 滞在メニュー やプログラムの 開発、実施	千歳観光連盟と連携しながら、 継続して魅力資源の発 掘、商品化を進める。	同左
			・ 環境サステナビリティの実 現を目指し、既存の支笏湖ダ イビングに、湖底に蓄積する ごみの清掃を行ないながら体 験観光を行なうグリーンダイ ビングを造成展開していく。 ・ また、支笏湖スタイルのキャン プ、カヌーやダイビングなど の体験観光に自然学習を組み 込んだキャンプ商品として造 成し、ゼロカーボンパークから の新たな発信を目指す。	支笏湖スタイルのキャン プ、カヌーやダイビングな どの体験観光の充実を図る 為、ガイドの養成や事業者 の連携の充実を図る。
	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理	① 情報提供・案 内機能の充実	支笏湖へ来訪された方々への 現地案内、情報提供を充実さ せるため、関係機関との調整 を図っていく。	同左
			支笏湖ビジターセンターに おける外国人対応のための 英語対応職員配置への協力 (支援)の継続	同左
			高速道路における「支笏 湖」看板設置要請に関して の検討を継続	同左
			ゼロカーボンパークとしての 自然体験フィールドを発信す るための推進体制の構築と発 信拠点の整備を行う。	推進体制の構築と発信拠点 の強化と地域連携体制の強 化を図る。
	(4) サステナブル・ツ ーリズムの実 現	① 二次・三次交 通の充実	二次・三次交通の充実に資す る周辺地域（ニセコ地区 等）との連携強化	同左
			シーニックバイウェイ事業 とともに自転車利用の推進 を継続して進める。	同左
		② 持続的な利用 のためのルール の策定と普及	支笏湖の適正利用を推進す るため、利用ルールをアッ プデートし運用を進めてい く。	支笏湖周辺すべての地区の利 用ルールを策定し適正利用 を推進する。引き続き利用 ルールをアップデートし運 用を進めていく。

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
国立公園支 笏湖運営協 議会	(5) 多様な滞在スタイルの推進	① ワークেশ ン推進のための 検討、調査	ワークেশ ン環境の整備 状況並びに施設の取組状況 を見ながら有効な商品開発 に繋げ、ワークেশ ン推 進を行う。	同左
			ワークেশ ン推進のためイン フラ強化と発信の強化	同左
	(6) 周辺地域との連 携、他の国立公園 との連携	① 周辺地域との 連携	千歳支笏湖のアイヌ文化とも 結びつけてのウポバイとの連 携方策を検討している。 (2022年度の取組を継続)	2022年度の取組(左記)を継 続
			千歳市、苫小牧市等関係機 関との情報共有により道道 141号の冬季閉鎖解除要請 について検討している。	2022年度の取組(左記)を継 続
		② 支笏湖地区と 定山溪地区との 連携	枠組みが整った段階で支笏 湖と定山溪、また恵庭溪谷等 の周辺エリアと連携したプ ログラムの開発を検討して いく。(2022年度の取組を 継続)	2022年度の取組(左記)を継 続
		③ 他の国立公園 との連携	北海道の国立公園の入り口 に位置する支笏湖からの道 内の国立公園等の自然フィ ールドの情報発信の充実	同左
	(7) 自然体験活動の 推進体制を強化	① DMO等への 組織強化	組織強化のための取組を継 続	同左
			ゼロカーボンパークとして の環境維持と自然体験活動 の両立が可能な運営体制の 構築と強化	ゼロカーボンパークとして の環境維持と自然体験活動 の両立が可能な運営体制の 安定した運営
自然公園財 団支笏湖支 部	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理	① 情報提供・案 内機能の充実	・道内の国立公園を紹介す るパンフレットの備え付け ・各種案内表示やHP等の英 語併記 ・JNTO認定カテゴリーⅡに ついては、スタッフ体制を 勘案し検討 ・英語対応スタッフを配置	同左
		② 利用施設の整 備、改善、維持 管理の充実	現状の取組(以下)を継続 ・支笏湖園地の維持管理を 継続実施 ・多目的室の貸し出しによ る企画展を実施	同左
	(4) サスティナブル・ツーリズム の実現	① 二次・三次交 通の充実	現状の取組(以下)を継続 ・電動アシスト自転車の貸 し出し ・モデルコースのツアーの 企画・実施	同左
	(5) 多様な滞在スタイルの推進	② ナイトタイム の充実	夜のイベントの実施検討	同左

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
北海道地方 環境事務所	(1) 支笏湖・定山溪 地区の魅力を国 内外へ周知	③国内外への情 報発信	・「日本の国立公園コンテ ンツ集」の情報追加、見直 し ・支笏洞爺国立公園内での 新たなモデルコースの検 討、提案	同左
			SNS（Facebookと Instagram）およびホーム ページを活用し、支笏洞爺国 立公園の魅力を継続発信	同左
			道内の担当職員間による意 見交換などを通じ、道内6 公園の連携を推進	同左
			環境省オフィシャルパート ナー企業と連携した支笏洞 爺国立公園の認知向上、保 全や適正利用に向けた情報 発信	同左
		④ 海外に向けた P R	関係機関と連携し、 ATWS2023の受け入れ体制 の整備継続	—
			ATWS2023を通じ、支笏洞 爺国立公園でのATを全世界 へ向け、継続発信	—
			ツーリズムEXPO、VJTMな どで支笏洞爺国立公園の情 報を継続発信	同左
	(2) 自然体験プログ ラムの充実	①実態調査(基礎 調査)	支笏湖・定山溪地区におけ る外国人を含む利用状況調 査を実施	同左
		② ガイド及びガ イド事業者の育 成、技術向上支援	エコツーリズムにかかる人 材育成研修の講師派遣を必 要に応じて実施	同左
		③ 滞在メニュー やプログラムの 開発、実施	観光庁との連携事業等によ り支笏湖のゼロカーボンパ ークや、定山溪の官民連携 した取組みを継続推進	同左
			縄文文化、アイヌ文化、火 山と防災、産業遺産など、 支笏洞爺国立公園内の教育 資産を利用した旅行の提案 を継続。支笏洞爺国立公園 外の関連する教育資産との 連携	同左
	(3) 国立公園にふさ わしい自然体験 フィールドの充 実とその管理	① 情報提供・案 内機能の充実	支笏湖ビジターセンターに 設置したデジタルサイネー ジの活用継続	・支笏湖ビジターセンター に設置したデジタルサイネ ージのコンテンツを増や し、利便性を向上
			支笏湖ビジターセンター内 や園地内の多言語化を含む ユニバーサルデザインへの 対応、ウェブサイトの多言 語化推進	同左

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の取組予定	2025年度までの展望、 取組予定
北海道地方 環境事務所	(3) 国立公園にふさわしい自然体験 フィールドの充実とその管理	① 情報提供・案内機能の充実	携帯電話のビックデータ、その他の調査に基づき、誘客やオーバーユース対策など、適正利用を推進	同左
		② 利用施設の整備、改善、維持管理の充実	「支笏湖・定山渓地区自然体験活動推進協議会」において、登山道に関する意見交換会を開催し、管理体制などについて現況把握や情報共有	同左
			モラップ野営場の上質化に向け、民間売店の移転に伴う取付道路の整備や駐車場改修、テントサイト造成、電線地中化やWi-fi整備等を実施	モラップ地区の活性化に向けた取組を進める。
		③ 魅力的な景観の保全、景観形成	・ 第5駐車場（広場）およびモラップ野営場の再整備事業の完了 ・ 官民連携による施設管理と受益者（湖面利用者）負担による湖面適正利用の取組みの実証試験を実施	第5駐車場の実証試験結果に基づく、官民連携した受益者負担による管理運営の実装
	(4) サステナブル・ツーリズムの実現		必要に応じて樹木の定期点検、景観支障木の伐採を実施	同左
		① 二次・三次交通の充実	ゼロカーボンパークの拡充や取組推進に向け、エネルギー特別会計を活用した補助事業や交付金に関する情報を提供	同左
		① 二次・三次交通の充実	モラップ野営場および支笏湖公共駐車場におけるEV充電スタンドの運用継続、各拠点におけるレンタル電動自転車導入による連携の検討	—
		② 持続的な利用のためのルール の策定と普及	・ 「支笏湖ルール」の普及と、官民連携による受益者（湖面利用者）負担の検討継続 ・ 支笏湖ゼロカーボンパークにおける地域主体の「支笏湖スタイル」の取組への後方支援	同左
		③ CO2排出削減	支笏湖ビジターセンター等の直轄施設のRE100（Renewable Energy 100%）達成の維持継続と、各施設の更なる省エネ化の検討	同左

実施主体	事業種別 (基本方針)	事業種別 (細目)	2023年度の実施予定	2025年度までの展望、 実施予定
北海道地方 環境事務所	(5) 多様な滞在スタイルの推進	① ワークেশョ ン推進のための 検討、調査	モラップ野営場におけるワ ークেশョンスペースの運 用開始、フリーWi-Fiの提供	ワークেশョン推進に向け た補助事業や交付金に関す る情報を提供
		② ナイトタイム の充実	新たな夜間ツアーの実施に ついて検討	同左
	(6) 周辺地域との連 携、他の国立公園 との連携	① 周辺地域との 連携	・ 民族共生象徴空間ウポポ イ、洞爺湖有珠山ユネスコ 世界ジオパーク、世界遺産 (縄文遺跡群) などとの協 力体制構築 ・ 北海道登別洞爺広域観光 圏協議会や、ウェルカム北 海道エリア・行政連絡担当 者合同会議などへの参加を 通じ、連携を推進	同左

5. 推進プログラムの進捗・達成状況の確認

2025 年までの間、毎年、前述の 3. 4. で設定した指標値の算出、及び、前述の 4. に記載した取組の進捗状況について構成員からの聞き取りを行い、推進プログラムの進捗・達成状況を確認する。

推進プログラムの進捗・達成状況は、推進協議会（毎年 1 回以上開催）において報告し、新たな取組の追加や変更等、随時、推進プログラムの修正、改善を行っていく。

2026 年度に、各構成員はプログラムに基づく 2025 年までの取組の成果について取りまとめ、推進協議会に報告する。